



## カンボジアの子どもたちに教育を

ニュースレター70号

### カンボジアでのこれからの活動

2020年2月

丸山芳彦

皆様のご支援のおかげを持ちまして、当会は発足以来18年目を迎えました。本年も宜しくお願いいたします。

ニュースレター69号でお知らせしましたように、当会の最も重要な活動でありましたカンボジア小学校への不足教科書の充填支援活動が、突然不要となりました。

これはカンボジア政府が昨年度から不足分教科書の補充を本気で始めたことによります。カンボジア政府もやっと動きだしたことはとても喜ばしい事だと思います。当会はこの活動を通じて10年間で、28,474冊の教科書支援を行い、対象の11の小学校からはたいへん感謝されております。あらためまして皆様のご支援にお礼申し上げます。

### これからの活動

小学校の教科書不足問題は改善されつつありますが、カンボジアの教育事情は相変わらず多くの問題を抱えています。義務教育は日本同様の小学校・中学校の9年間ですが、我々は就学率の実状は、諸情報から小学校で約80%、中学校では約60%位と考えております。学校に通えない最大の理由は貧困です。これからは、教科書支援に代わる支援を模索しながら、活動を続けていきます。

#### ①『非正規識字学校』の運営強化

当会は、いろいろな理由で小学校に通えない子供達を対象に先生2人を雇い『非正規識字学校』の運営を行ってきました。今年からはこの活動の充実を行っていきます。どのように行っていくかは、現地の先生達と相談して決めていこうと思っております。

#### ②『Drinking Friends' Fund(以下DFF)』への積極支援

当会のカンボジア職員のリティさんが2016年から始めたこの活動は貧困が原因で学校に通うことが困難な子供を主に経済的に支援する活動です。昨年まで主にリティさんの飲み友達からの寄付で成り立っていました。当会ではこの活動を積極支援し、教科書支援に代わる活動の柱の1つに育てていく所存です。支援できる子供は限られてしまいますが、子供達に寄り添った形での支援ができることは楽しみでもあります。今後はニュースレターを通じて、みなさまには定期的にご報告していきます。

### ～目次～

これからの活動	1～3頁
ABK 秋祭り参加報告	3、4頁
新理事あいさつ	5頁
事務連絡	6頁

## ◇DFFで支援する4人の子供達の紹介

### Chhay Piseth君



Piseth君は18歳です。 Tuol Ampil高校の10年生(高校1年生)になりました。

ニュースレターでも数回紹介しましたように、リティさんがこの活動を始めるきっかけになった少年です。 父親はおらず、母親は行方不明、今は仏塔で生活しています。

リティさんと出会う前は、彼はギャングと付き合ったり、麻薬に手をだしたりしていた不良少年でした。 彼は勉強に関しては良くできる優秀な少年で、学校を続けたい希望が強かったので、リティさんが飲み友達を巻き込んでDFFを始め、経済的な支援をしています。 識字学校のソクホーン先生も彼の生活を支えています。

DFFでは彼が高校を卒業するまで支援を続けたいと考えています。 大学へは彼の力で行くことを願っています。

### Chhoen Thik君

Thik君は16歳です。 Piseth君と同じ学校の7年生(中学1年生)です。

彼には母親がいません。父親は彼を残してたびたび行方不明になります。彼は識字学校の生徒でしたので、ソクホーン先生が生活の面倒をみていて、昨年中学に進学しました。

DFFでは昨年から彼の支援を始めましたがPiseth君と2人を支援するだけの費用は集まらず、不足分はリティさんとソクホーン先生の持ち出しで対応しているのが実状でした。



## ◇今年から新しく支援をはじめた2人の少女

### Kob Chandyちゃん

Kobちゃんは11歳です。彼女はソクホーン先生が教えているPrek Chrey小学校の3年生です。9歳の弟がいます。

父親はすでに亡くなっており、母親は工場で働いていますが、病弱で生活に十分なお金を稼ぐことができません。彼女は今祖母の家で暮らしており、祖母が手作りのケーキを売ることを手伝いながら学校に通っています。 彼女は時間があるときは孤児院で勉強しています。彼女は中学を卒業することを希望しています。

## Pov Piseyちゃん

Povちゃんは8歳です。彼女はKobちゃんと同じ小学校の2年生です。彼女の父親は亡くなっており、母親は建設労働者として働いていますが、精神が不安定です。また、建設の仕事でいろいろな場所に移り住まねばなりません。

建設の仕事が無い時は近くの孤児院で働いており、Povちゃんは今その孤児院に住んでいます。彼女も中学を卒業したいと思っています。

\*\*\*\*\*

当会は、今年は2チームに分かれてカンボジアを訪問し、今後はどのような支援が必要か、を検討していきます。

(尚、訪問費用は当会メンバー個人で負担し、みなさまからのご支援金はカンボジアの子供達に大切にに使わせていただきます。)



今後も皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

## ABK秋祭り お茶会で国際交流！

斉藤乃章

昨年10月26日(土)、当会がお世話になっているアジア文化会館で秋祭りが開催されました。これは留学生と地元住民との交流を図る目的で毎年この時期に行われているものです。

当会は無償でアジア文化会館に事務所を置かせてもらっており、日頃の謝意を示す意味でこれまでもお祭りの準備の手伝いやブース出店を行ってきました。

前年の韓国のチヂミに代わり、今回は日本文化をアピールしようとお抹茶と和菓子を提供しながら募金活動を行うこととしました。裏千家の竹内宗幸(そうこう)準教授と友人3名の方々(大阪宗恵さん、望月宗鶴さん、松嶋紫さん)にお越し頂き、当会スタッフは会場整理や募金活動などのお手伝いを行うこととしました。

今回、当会のブースは初めて 101 教室の一角が割り当てられ、留学生達が作る各国のブースとお祭りを盛り上げようと頑張りました。お茶の先生方は皆様着物姿で、華やかな装飾を施すとブースはいっぺんに優雅なお茶会の席になりました。和菓子は地元の名店栄泉堂からのお取り寄せです。

当日は地元住民の方や会館の関係者の方をはじめ多くの方が来館され、ブ



ース也大いに盛り上がりました。その場で点てられるお抹茶に興味津々な子供たちや初めて体験する外国人カップル、皆さん日本の素晴らしい文化であるお茶の世界にちょっとだけ触れることのできた貴重な経験ではなかったでしょうか。募金額は残念ながら目標には及びませんでした。当会の活動の目的である国際交流にも繋がった一日であったと自負しています。またアジア文化会館にも多少の恩返しができたと思っております。



今年もまた秋祭りに参加を予定しております。引き続きご支援をお願いいたします。

## 新理事あいさつ

柳明姫 (リュウ ミョンヒ)

長男と一緒にインターネットを通してボランティア活動を探していて、この日韓アジア基金にたどり着きました。ここでの活動も既に7年目になります。最初は子供の親として軽い気持ちで参加しましたが、昨年の春に理事と言う責任のある仕事を勧められて大変戸惑いました。それは自分の好きな時にボランティアをするのではなく、一つの組織を運営していくメンバーとしての活動は大変重く感じられ、簡単に引き受ける事は出来ないと考えたからです。

設立時の方々がご高齢化し、また活動メンバーが少なくなって運営自体が厳しくなる中でも、故大澤氏のこの会に対する揺るがない深い愛情と熱情を目の当たりにして、断る事が出来ませんでした。何よりこの団体での大澤氏との交流は、日本に来て22年になる私には国籍とは関係なく一人の人間として色々な面で教わる事が出来た時間でした。

韓国に対して興味や愛情を持っている日本人の若者達、日本に住みながらもっと日本人との交流の場を広げたい韓国人が活動を共にするのを見て、両国の関係がとても厳しい今だからこそ日韓アジア基金はもっと出来る事が多いのではと思うようになりました。いくら小さい組織でも一人ひとりがその様な望みを持って頑張れば日本と韓国の関係はきっと良くなるでしょう。

ニュースレターを通して支援先であるカンボジアの非正規識字学校の事を定期的に会員さんに伝える、また毎年文京区とお台場で開催される国際協力イベントで当会の活動を知らせ募金活動も続けています。ビビンの会では日本人と韓国人が集まりお互いの文化や意見を交わして、もっと相手の国を深く理解する事が出来る時間も設けています。

昨年からは神奈川県伊勢原市にある自修館中等教育学校の生徒さん達との活動も始まりました。生徒さん達が2時間近くかけてお台場のグローバルフェスタに参加し、当会の活動やカンボジアの子供達への支援を呼びかける姿はあまりにも感動的で今にも鮮明に覚えています。

個人的な望みですが自修館の生徒さん達と韓国の生徒達が会って色々話が出来る機会を作り、さらに支援先であるカンボジアの学校を共に訪れ同じ現地の子供達とまた話す時間を設ければ良いなど夢を持っています。

今年は5月と8月に二つのチームに分けてカンボジアの学校を訪問します。現地に行って子供達と触れ合えば支援者の皆様にもっと生々しい現地の事情や現地の意見を伝えられるし、当会がこれからもっとやるべき活動も判ってくると思います。

日韓両国の若者がカンボジアで学校に通えない子供達を助ける活動を続けながら、交流の時間を増やしコミュニケーションを取れる機会が多くなってお互いの気持ちをもっと分かるようになれば、両国間の誤解が解け、より理解し合える関係になる との期待を持ち今年も頑張ります。



## 事務連絡

齊藤乃章

2019年11月11日～2020年1月15日に会費・ご寄付を下さった方(敬称略・順不同)

ジョンヨハン	石谷草	五十嵐安雄	岩見豊子	久保田裕美	伊藤ひとみ
井内和夫	堀川泰義	武之内教男	木村由美	小原勝子	大坪玲子
片岡彩子	米田容子	伊藤潤	高橋陽子	高柳直正	齊藤乃章
江本哲也	福島忠男 シゲ	第26回 チラタ会	丹下誠司	日本聖公会 川越基督教 会	

### 今後のイベント開催予定

(ボランティア募集あります、詳細は下記までお問い合わせ下さい)

20年6月 ビビンの会

20年7月 ニュースレター第71号発送作業

### ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費5,000円(学生、未成年者2,000円)

賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者1口2,000円)

法人会員:年会費1口10万円

ご寄付:2,000円以上おいくらでも

活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権がございます

賛助会員:定期的にご支援頂ける方。

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター(概ね3ヶ月毎発行)をお届けします。

### みずほ銀行口座

支店名 駒込支店

口座番号 普通 1017391

口座名義 日韓アジア基金

### ゆうちょ銀行振替口座

支店名 〇一九(ゼロイチキウ)店

口座番号 当座 00180-2-25153

口座名義 日韓アジア基金

(カタカナ表記 ニツカンアジアキキン)

<お問合せ先> (日本語でお願いします)

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内

Tel:090-5812-1471(庶務・会計担当 齊藤) FAX:03-3946-7599 (ABK)

E-メール:nikka17@iloveasia2.sakura.ne.jp HP:<http://www.iloveasiafund.com>

Facebook、Twitter もご覧ください!

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也